



EXPO 2005 AICHI だより No. 13

2001年(平成13年)8月24日号

「基本的な枠組み」と「プロデューサー体制」のもと、魅力的な国際博を実現します

第2回愛知万博推進最高会議で報告、了承



右から、総合プロデューサーの泉眞也氏、菊竹清訓氏、木村尚三郎氏。チーフ・プロデューサーの原田鎮郎氏、福井昌平氏、牧村真史氏

第2回愛知万博推進最高会議が7月23日に開催され、博覧会協会から、2005年日本国際博覧会(愛知万博)の基本的な枠組みと「プロデューサー体制」について報告し、了承されました。

愛知万博の方向性を広く提示

「基本的な枠組み」は、愛知万博事業の基本原則(2月27日公表)をベースに、6月末に堺屋最高顧問(当時)から提出されたコンセプト・ストーリーも参考にしたりまとめたもので、博覧会事業に携わる関係者が、今後具体的な事業計画等を検討、実施していく上での前提となります。

同時に、これは愛知万博の方向性を提示するもので、翌日の24日から協会ホームページで公開し、みなさんからの意見を募集しました(基本的な枠組みは3~5面に全文掲載)。

総合プロデューサーに泉氏、菊竹氏、木村氏

「プロデューサー体制」については、総合プロデューサーに泉眞也氏、菊竹清訓氏、木村尚三郎氏、またチーフ・プロデューサーに原田鎮郎氏、福井昌平氏、牧村真史氏をそれぞれ選任しました(各プロデューサーのプロフィールは2面に掲載)。

総合プロデューサーの方々には、各々の専門分野に立脚して、高い視点から博覧会事業を指導いただきます。

また、チーフ・プロデューサーには、個別分野ごとのプロデューサーを兼ね、博覧会の事業運営、会場計画等の実務面の一切を手がけていただきます。

博覧会協会は、この「基本的な枠組み」と「プロデューサー体制」のもと、精力的に作業を進め、できるだけ早い時期に具体的な事業内容を示したいと考えています。

CONTENTS



EXPO 2005 AICHIだより 2001.8.24

第2回愛知万博推進最高会議を開催.....	1
総合プロデューサーとチーフ・プロデューサーの紹介.....	2
愛知万博の基本的な枠組み.....	3~5
世界各国・国際機関から参加表明.....	6
EXPO 2005 AICHI TOPICS.....	7
・瀬戸市にEXPO市民サロンがオープン	
・ホームページに環境情報システムを導入	
・キッズ・プレイキャンパス協働スクール開催中	
・百貨店で公式ピンバッジを販売中	
・シンボルマークがADC会員賞を受賞	
「万博PRの日」運動が広がっています.....	8



最高会議で挨拶する豊田博覧会協会会長(右)と、坂本博覧会協会事務総長

第2回愛知万博推進最高会議の出席者

経済産業省から平沼赳夫大臣の代理として大村秀章大臣政務官、古田肇商務流通審議官、神田真秋愛知県知事、松原武久名古屋市長、増岡錦也瀬戸市長、加藤梅雄長久手町長、鈴木公平豊田市長、磯村巖名古屋商工会議所会頭、太田宏次中部経済連合会会長、豊田章一郎博覧会協会会長、坂本春生博覧会協会事務総長

見識・経験豊かなプロデューサーが決定!

このたび就任された総合プロデューサーと、チーフ・プロデューサー各氏を紹介します。

(右から五十音順)

総合プロデューサー

木村 尚三郎
(きむら しょうさぶろう)氏

静岡文化芸術大学学長 / 東京大学名誉教授。1930年東京都生まれ。53年東京大学文学部西洋史学科卒。76年東京大学教養学部教授。75年に『ヨーロッパとの対話』で、日本エッセイスト・クラブ賞を受賞。97年から2年にわたり、総理府の食料・農業・農村基本問題調査会会長を務める。2000年静岡文化芸術大学学長に就任し、現在に至る。専攻はヨーロッパ史、現代文明論で、この分野の権威として知られる。



菊竹 清訓
(きくたけ きよのり)氏

建築家 / 工学博士。1928年福岡県生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒。53年菊竹清訓建築設計事務所設立。64年出雲大社庁舎の設計により、芸術選奨文部大臣賞、日本建築学会賞、アメリカ建築家協会汎太平洋賞の各賞を受賞。これまで、沖縄海洋博の空間プロデューサーをはじめ、筑波科学博マスタープラン作成委員、なら・シルクロード博ハードプロデューサー、長野オリンピック冬季大会空間構成監督を務めた。



泉 眞也
(いずみ しんや)氏

環境デザイナー / プロデューサー。1930年東京都生まれ。東京芸術大学美術学部工芸科卒。55年キヤノンカメラ(株)入社、第1回グッドデザイン賞などを受賞。62年退社後フリー。金沢美術工芸大学特別客員教授。多摩美術大学客員教授。慶應義塾大学ビジネス・スクール顧問。第1回世界環境展総合プロデューサーをはじめ、大阪万博、沖縄海洋博、筑波科学博と、すべての万博に参画。90年には国際花と緑の博覧会総合プロデューサーを務めた。



チーフ・プロデューサー

牧村 真史
(まきむら まさふみ)氏

イベントプロデューサー / コミュニケーションプロデューサー。1950年東京都生まれ。専門誌、コミュニティーペーパーの編集長、イベントプロデューサーなどを経て、80年に(株)ブレンハチジューウを設立。博覧会、都市・地域開発の企画・プロデュース、各種イベントやコミュニケーション戦略の開発、企画・製作などを得意とする。最近では、江戸幕府開府400年祭アドバイザー、ジャパンエキスポ大賞審査委員等各種委員などを務めた。



福井 昌平
(ふくい しょうへい)氏

CIプランナー。1946年鳥取県生まれ。84年から92年まで(株)電通の嘱託社員として、広告マーケティング以外の新たなコミュニケーション事業と顧客サービスの企画開発に携わる。CI戦略、CC戦略、ブランドエクイティ戦略、都市開発、大型イベント開発等の新規事業開発に参加。91年に(株)コミュニケーション・デザインング研究所を創立させ、コンサルタントから実践プログラム開発までのトータルサービスを展開している。



原田 鎮郎
(はらだ しのぶ)氏

建築家。1943年東京都生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院建築工学専攻修士課程修了。68年から75年まで(株)菊竹清訓建築設計事務所に在籍し、ハワイ海上都市、沖縄海洋博政府館アクアポリス等の設計を担当。75年から79年まで(株)都市環境計画研究所に在籍。79年に(株)環境システム研究所を設立し、従来の社会システム開発に加えて超々高層建築などの研究に参加。博覧会関連では、なら・シルクロード博、世界都市博覧会等を担当した。



堺屋最高顧問(当時)がコンセプトとストーリーを提出

堺屋最高顧問(当時)からコンセプトとストーリーを受け取る豊田博覧会協会会長(右)



6 月28日、堺屋太一博覧会協会最高顧問(当時)から豊田章一郎博覧会協会会長に愛知万博のコンセプトとストーリーが提出されました。堺屋氏はコンセプトとストーリーの提出により最高顧問の役割を終えられましたが、今後もシニアアドバイザー、顧問として愛知万博事業へ助言をいただくとのことになります。

このコンセプトとストーリーの内容のうち現時点で取り組める部分については、2005年日本国際博覧会(愛知万博)の基本的な枠組みに極力取り入れられています。

2005年日本国際博覧会(愛知万博)の基本的な枠組み

基本的な考え方

BIE登録事項に基づき、循環型の万博をめざします

愛

知万博は、21世紀の人類が直面する課題の解決の方向性と人類の生き方を発信するため、国際博覧会に関する条約に基づく登録を受けて開催されるものであり、多数の国々の参加のもと、地球時代の新たな国際貢献として日本が主導的役割を果たすことにより、自然の叡智をテーマとした新しい文化・文明の創造をめざすものである。

開催期間の前後を通じて地球規模での市民参加を得、人類と自然の関係に関する意識の大きな転換点となることにより、子どもから高齢者まであらゆる国の人々が生きる喜びや将来の夢を語り合うきっかけとなり、またこの地域に愛知万博の理念が受け継がれ、新たな付加価値を生み出す世界的な産業技術の中核圏域が形成される契機となる。未来への希望に満ちた博覧会となることをめざす。

会場構想では、両地区の特質を生かした会場づくりをすすめるとともに、環境負荷の抑制をはかる。また、来場者の視点に立ち、安全性・利便性・快適性の確保、バリアフリー化をはかり、会場への多様なアクセスルートの確保に努めるものとする。

時代背景

IT時代、市民参加、高齢社会に対応します

21

世紀初頭の国際博覧会として、次のような新たな時代性と課題を十分認識して開催する。

1 地球環境問題・資源問題等の深刻化

地球温暖化などの地球環境問題、資源制約や水・食糧問題などが深刻化する中、世界各国が地球的な視野でその解決のための知恵を持ち寄る必要がある。

2 IT時代の本格化

インターネットをはじめとするIT(情報技術)が急速に発展する中、社会構造・産業構造や社会生活の新たなあり方の提案が要請されている。

3 視野の飛躍的拡大

ポータル社会、過去から未来、遺伝子から宇宙までの果てしない視野の広

がりが増大している中、広い視野からの取り組みが求められている。

4 価値観の多様化

人々の価値観が多様化する中、人類の共通課題の解決に向けて、また興味関心事の違いを前提として、如何に多様性を生かしたアプローチが可能なかを追求する必要がある。

5 市民参加・NPOの大きな潮流

社会を構成する要素としての市民やNPOの役割が増大する中、新たな市民参加のあり方、さらには地球市民としての連帯のあり方が要請されている。

6 高齢社会への突入期

高齢社会が本格的に始まる中、福祉・介護の面のみならず、生きがいをもつて長寿を楽しむ社会意識の醸成、社会システムの追求が必要である。

開催目的

21世紀初の万博として日本から世界に発信

時

代背景と日本の現状をふまえ、愛知万博の主な目的を以下のとおり認識して開催する。

1 壮大な文化・文明創造事業

環境問題等が地球規模で深刻化し、人・モノ・情報の交流が地球規模で活性化している現在、独特の風土と特性に基づき培われた世界各地の文化・文明はその多様性をアイデンティティとして継承しながらも、一方で地球規模での新たなアプローチが求められている。

愛知万博ではその回性のゆえに、あらゆる事象あらゆる分野において果敢に新たな挑戦と実験に取り組み、時代の先端的な社会モデルとなる文化・文明の創造と提案を行うことを目的とする。

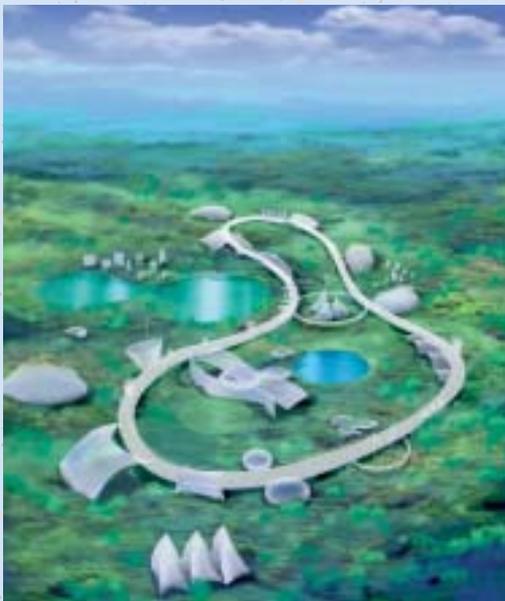
2 日本から世界への発信

日本は戦後、平和主義に徹し、産業技術に力を入れ、驚異的な経済発展を遂げ豊かな社会になった。IT・ロボット・マイクロマシン・バイオテクノロジー・ナノテクノロジーなど高度な技術力は、今や世界の産業発展に貢献しつつあるが、同時に人類が直面する地球環境問題・資源問題などの解決にも大いに貢献することが期待されている。

愛知万博では世界に対して21世紀の人類が直面する問題の解決の方向と人類の生き方について発信し、国際社会における日本の存在価値を高めることをめざす。

3 現在から未来の発信

もはや大量生産・大量消費・大量廃



2005年日本国際博覧会(愛知万博)の主なBIE登録事項

1. 名称	2005年日本国際博覧会
2. テーマ	自然の叡智
3. サブテーマ	(1)宇宙、生命と情報 (2)人生の"わざ"と智恵 (3)循環型社会
4. 開催期間	2005年3月25日～9月25日
5. 会場	愛知県瀬戸市、長久手町、豊田市の約173ha (海上の森、青少年公園、科学技術交流センター予定地)

業型の経済発展が望めなくなりつつある現在、過去の成功体験の強い日本人は自信を失いつつある。しかしながら、今後、循環型社会を構築し、自然と共存するしくみができれば、新たな発展に豊かな生活を期待することができる。

愛知万博では日本でも有数なものづくりの中心地であるこの中部地域の底力を発揮して積極的に未来に対する発信を行い、日本人の自信と夢を回復し、今日の日本が置かれている閉塞状況を打破することをめざす。

テーマ「自然の叡智」及び「サブテーマ」

「自然の叡智」を3つのサブテーマで展開

21 世紀においては、自然の一部である人類が「自然の叡智」が及ばない、「自然の叡智」を謙虚に再認識することが大前提となる。今や自然の摂理、地球環境の許容量を超えようとしている人類文明は、自然からの様々な厳しい警告を受けている。人類と自然、地球が存続可能な発展の方向へと転換し、素晴らしい未来社会を築いていくことがすべての国にとって必須の条件となっている。そのため、IT革命を含め、これまでに人類が獲得してきた経験と知識と知恵の

すべてを傾けて、「自然の叡智」(自然のすばらしいしくみに)学んで創る素晴らしい21世紀社会のモデルを愛知万博で実現する。

テーマ「自然の叡智」は3つのサブテーマにより展開する。

第一サブテーマ「宇宙・生命と情報」においては、最先端の科学により、自然を探索するとともに、地球温暖化、エネルギー・環境・水・食糧などの地球的問題を解決する指針を示す。

第二サブテーマ「人生の「わざ」と智慧」においては、今までも自然の中から工芸・芸術・文化を生みだしてきたように、自然の中から喜び、楽しみ、生き甲斐の世界を創造し、21世紀の人々が生き生き暮らしていく方向性を提示する。

第三サブテーマ「循環型社会」においては、新エネルギーの導入、3Rリデュースリユースリサイクル等を実行することによって循環型社会の構築を試みる。

事業の基本方針

確実に1500万人を確保し、夜は10時まで開催

1 事業の基本諸元

入場者数は1500万人を確実なものとし、更にそれ以上の入場者の確保に努力する。

予算については、採算性を必須条件とする。会場建設費1350億円については、当初予算を出来得る限り抑制し、追加的な費用を吸収する。運営費550億円については、資金計画を再度見直し、効率的な執行に努める。収入を得る限り収入を増加する方向で運営する。

営業時間は、午前9時から午後10時を原則とする。

2 事業展開の基本的考え方

万博事業の展開にあたっては次の各点に重点をおく。

1 事業企画の重点

生命・宇宙など未知の自然へのアプローチ

生命科学、宇宙科学、ナノテクノロジーなど、自然科学の最先端技術を提示することにより、「自然の叡智」自然のすばらしいしくみに触れ、その偉大さを体感し、自然と共存することの重要性を深く再認識する。

ex.

- 各民族の宇宙観、宇宙開発の最新線、宇宙生活の仮想体験、宇宙食食堂、ミクロコスモスからマクロコスモスの壮大な旅
- 自然と生命の神秘、生命科学、生命起源の謎、最新医療技術、医療技術の倫理、子供の科学する心、バイオコンピュータ、食糧生産システムの最新線

ex. セクレム評価、インターネットによる会場のアプローチ、会場映像の発信、バーチャルバーチャル、宇宙や世界の映像をリアルタイムで写す野外スクリーン、ITの最新線

自然と共に暮らすの喜び

自然の一部であるという人間の原点に立ち、衣食住文化、生活環境等様々な面において豊かで幸せな自然との調和を提唱する。

ex.

- 自然に調和した衣食住、自然のかわかりが生んだ芸・芸能、芸術、宗教、自然と共存した都市建設のモデル、自然を体感するインターネット、自然や生命が作り出すアート、環境共生住宅

楽しく魅力的な高齢社会のモデル

高齢社会が現実のものとなる21世紀において、高齢者が楽しく生き甲斐をもつて生活できる社会のモデルを、諸外国の経験も踏まえ、ハードソフト両面から追求する。

長い人生経験で培った生活の知恵が後世へ受け継がれていくような世代間交流の場も設置する。

ex.

- 待ち時間と歩行距離の短縮、便利で快適な休憩場所、バリアフリー、歴史・宗教・住宅、医療などのエデュテイメント(楽しみながらの学習)、88か所ミニテラス、寺めぐり、世界の食文化、高齢者アツシヨ、高齢者元気コンテスト、万博金婚式、銀婚式、万博同窓会、高齢者の知恵と若者の感性による共同芸術

アジアの国々を可能な限り包摂した世界各國の文化・文明の対話

地球温暖化など地球規模での問題の発生は、世界の人々に地球は一つという意識を益々強く抱かせるに至っている。国際博覧会の最大の特長である世界中の様々な国民・民族・文化の集結・

交流の必要性は益々高まっている。愛知万博は、互いの文化の違いを認め合い、地球規模の環境を意識し、人類の叡智を結集して未来に備える、またとないチャンスである。アジアの参加を積極的に促進し、できるだけ多くの国々、国際機関の参加を求め、文化・文明の交流をはかる。

2 事業実施の重点

ex. 各國の伝統芸能、まつり、ストリートパフォーマンス、食文化、住まい方、世界各國のNPOの交流、アート、宗教、ファッション、先端技術、手の技、世界大道芸人コンテスト、仮想エコツアーシステム

環境負荷の低い社会、循環型社会のモデル

地球環境問題に対応して、3Rリデュースリユースリサイクルシステム会場におけるゼロエミッションを目指した取り組み、新エネルギーシステムの最先端を示す。

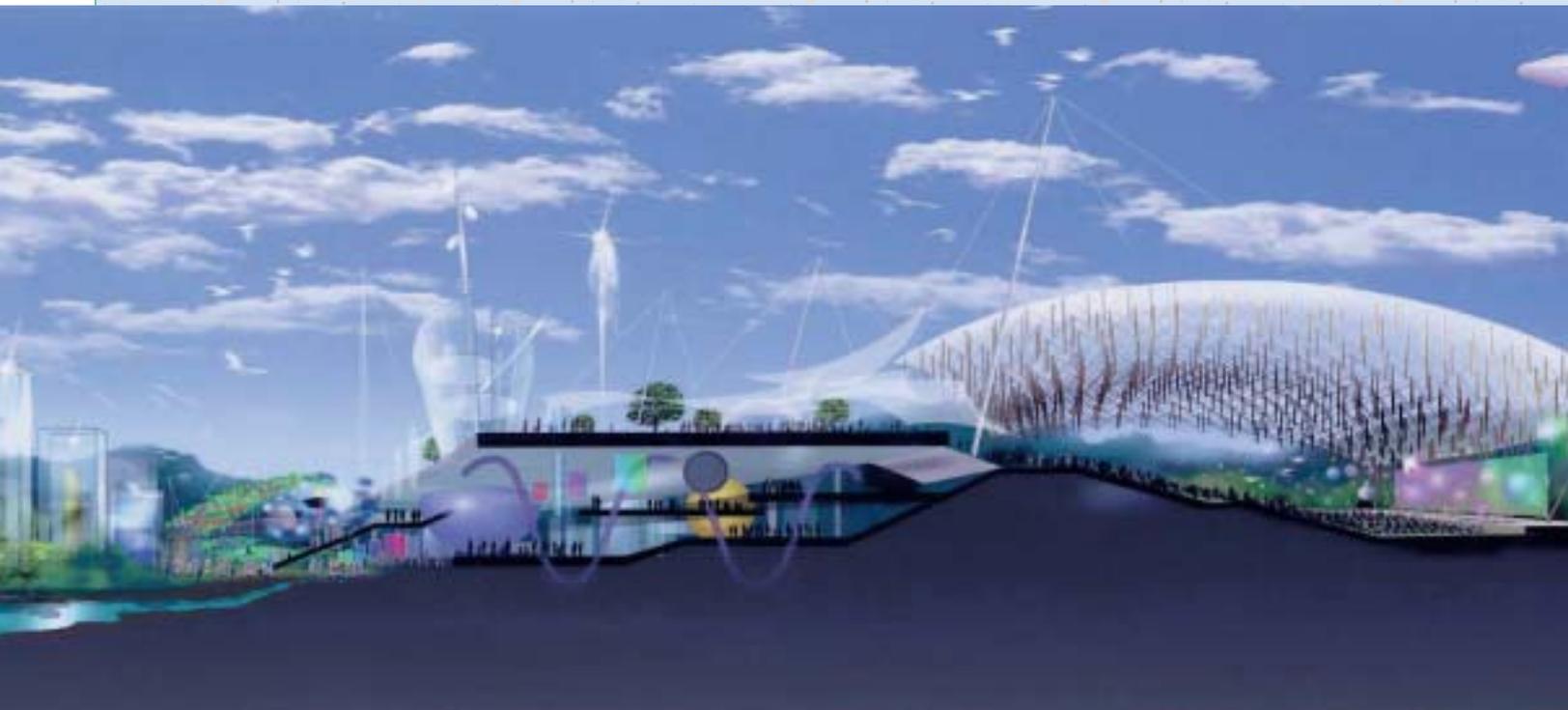
ex.

- 太陽電池・燃料電池・風力発電、バイオマス等の新エネルギー活用、環境未来型住宅・リサイクル技術・環境保全・再生技術などの最新線、CO2固定化・利用技術、会場のゼロエミッション、環境モニタリングシステム、地球市民手帳の発行、EXPOルル、地球環境レポート、環境産業技術の最新線

市民参加による、楽しく、おもしろい万博に

多様な形態による市民参加、かけがえない地球を未来に引き継ぐためには、今地球に生きる市民一人ひとりが自ら地球市民としての自覚を持ち、広く連帯し、考え、行動して





いくことが必要である。
 また21世紀の社会活動における新たな主役となりつつある市民・NPOに対して、博覧会の計画策定に関する意見提案、会場運営への協力、展示催事の企画運営等への参加を促し、また様々な活動成果の情報発信の場を提供する。

中部地域の発展と技術力の活用

中部地域は日本のものづくりの中心地として発展してきたが、その高い技術力は今後、宇宙・生命・情報資源・エネルギー・環境問題などのあらゆる分野でまた新しい生活文化においても、世界に大きく貢献することが予想される。

万博での果敢なパフォーマンスを通じて、中部地域が世界への発信力を強め、世界的な交流を深め、産業面ばかりではなく、文化面においても発展する契機となるよう、中部地域の潜在的な力を十分に発揮させる。

広域連携のネットワークの構築

万博の開催前の各方面の様々なイベントを推奨し、または開催中においては開催会場以外の地域においても自治体・企業・市民団体等、幅広い広域連携のネットワークをつくり、これらを総合して来場者の満足度と万博による活性化効果を最大にする。

楽しさ・おもろさの演出

展示・催事は多くの場合教育性・文化性を柱とするが、実際に経験することの価値の高まりを踏まえ、非日常性、まったり性による盛り上げ、もてなし・おもろさ、楽しさの経験などの魅力づくりをする。そのためには、展示・催事のみならず、営業活動についても高い洗練性や魅力を備えたものとする。

また、昼間とは趣を異にした夜間開

催時の楽しさと魅力の仕掛けを創造する。

会場づくりの方針

自然環境に配慮し、自然の創造に取り組みます

1 会場の位置づけ

海上地区は愛知万博の原点として、国・県により整備される恒久施設も活用し、国内外の市民・NPO活動や瀬戸の焼き物などを活用した人と自然が交流する会場とする。
 青少年公園地区は主要施設を収容する賑わいのある会場とする。

2 会場づくりの考え方

愛知万博会場の自然豊かな特色を生かし、会場全体をオープンな展示場とみなし、自然との調和をはかるとともに、高齢者や障害者をはじめとして多様な来場者が不便を感じることなく楽しめるよう、魅力的に設計・建設・運営する。

自然環境に配慮しつつ、必要かつ十分な展示・催事、その他施設のための面積を確保するため最大限の努力をする。

自然の保護のみならず、積極的に自然創造(ユー・ネイチャー)への取り組みをはかる。

安全・快適で楽しい会場内動線と多彩な会場内移動システムの実現をはかる。

リスクマネージメント(テロ(災害等)のため、会場のゆとり、位置方向の明確性、視界の広さと情報提供などに細

心の注意をはらす。

万博のグローバル性・国際性にかんがみ、ホストである政府館・テーマ館・メインホールとゲストである外国館との調和や、外国来場者へ特段の配慮をはらう。

展示場・催事場などの過性の施設は可能な限り短工期・低コストとすることも、撤去とリサイクル容易性を確保する。

愛知万博の会場の印象をより鮮明にし、かつ2005年の開催の精神を語り継ぐため、永久記念碑となるシンボルを建設する。

3 ソフト面の重視

一つの主役二つの目玉で大勢を拳に集めることを過度に狙わず、各々の展示場・催事場が固有のテーマ・コンセプト、ターゲットを明確にすることにより、多様な来場者の多様なニーズ・インプレイング(目的地)をめざす。

集客力の魅力の重点は、展示・催事のソフトに重点をおき、全体との調和とバランスを重視する。

会場におけるゼロエミッションを目指し、省エネルギー・新エネルギー設備の導入、3Rリデュース・リユース・リサイクルの徹底をはかる。

展示・催事は勿論、会場管理サービスを含めてITの徹底活用をはかる。

4 会場へのアクセス

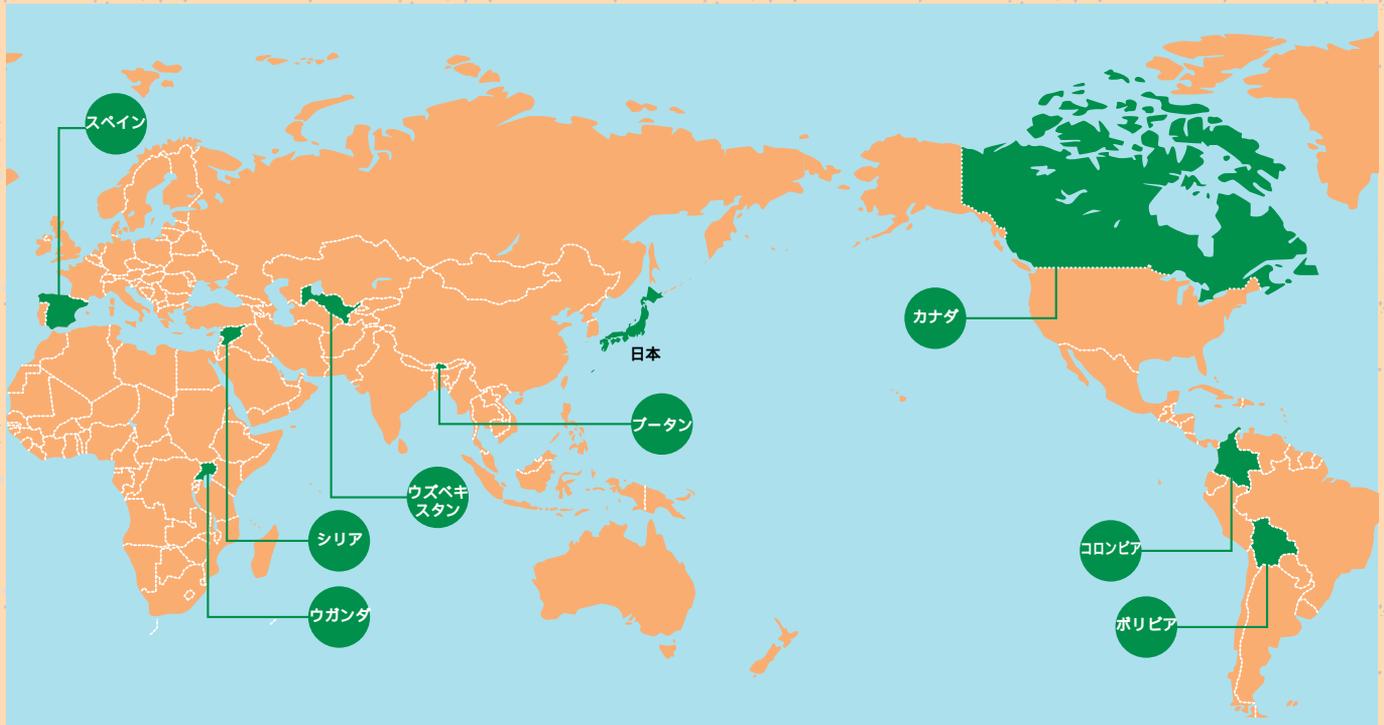
会場へのアクセスは出来る限り多様なルートを準備し、各ルートのバランスのとれた利用体系を作る。

5 環境アセスメント

環境アセスメントについては、経済産業省要領に基づき対処する。

相次いで世界各国・国際機関から参加表明

カナダ、スペインなど8ヶ国、4国際機関の参加が決まりました。(7月25日現在)



日 本政府は、世界の187の国々と73の国際機関に対して、3月30日より愛知万博の参加要請を始めています。参加表明状況は、カナダ、ボリビア、スペイン、ウガンダ、ウズベキスタン、シリア、ブータン、コロンビアの8ヶ国と生物多様性条約事務局、アジア生産性機構、ユネスコ、化学兵器禁止機関の4国際機関からとなっています。世界各国の国々が集まり、「自然の叡智」のテーマのもと、メッセージを発していく意義のある博覧会を築いていきたいと考えています。

参加表明国の概要



カナダ(首都:オタワ)
ロシアについて2番目に国土が大きい国(日本の約27倍) 人口約3000万人。



ボリビア共和国(首都:ラパス)
南米大陸のほぼ中央にある内陸国で、国土の3分の2はアマゾン川流域に属する平原森林地帯。人口約800万人。



スペイン(首都:マドリード)
イベリア半島の大部分を占める。1992年にはセビリア万国博覧会を開催。人口約4000万人。



ウガンダ共和国(首都:カンバラ)
東アフリカにある赤道直下の内陸国。人口約2100万人。



ウズベキスタン共和国(首都:タシケント)
中央アジア5カ国のほぼ中央に位置する。人口約2400万人。



シリア・アラブ共和国(首都:ダマスカス)
西アジアにあり地中海に面する。面積19万平方km(日本の約2分の1) 人口約1600万人。

参加表明国際機関の概要

生物多様性条約事務局(本部:カナダ・モントリオール)
同事務局は、93年12月に発効した生物多様性条約に基づく国際機関。同条約の締約国は、現在180カ国。地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全し、生物資源の持続可能性を確保することなどを目的としている。

アジア生産性機構(本部:東京)
同機構は、加盟国18カ国が行っている生産向上運動を一層活発に推進することにより、アジア太平洋諸国全体の経済発展と繁栄を図ることを目的としている国際機関。

ユネスコ(本部:フランス・パリ)
教育・科学・文化を通じて国際協力を促進し、世界の平和と安全に貢献することを目的とする国際連合の機関。1946年発足。

化学兵器禁止機関(本部:オランダ・ハーグ)
同機関は、化学兵器の廃絶をめざす多国間組織として結成された。世界から化学兵器の生産と保有の全面的な禁止を求める活動を行っており、大量破壊兵器の軍縮・不拡散制度を進める重要な機関となっている。



ブータン王国(首都:ティンブー)
インド東北部のアッサム・シッキムの北方、中国のチベット自治区の南方にある小さな国。人口約60万人。



コロンビア共和国(首都:サンタ・フェ・デ・ボゴタ)
南アメリカ北西部に位置する。面積114万平方km(日本の約3倍)、人口約4200万人。

参加型の 愛知万博に向けて、 自然と触れ合う カリキュラム

愛 知県内では、各地で工夫を凝らしたテーマのもとに「キッズ・プレイキャンパス協働スクール」を開催しています。このキッズ・プレイキャンパス協働スクールに参加した子供たちは、11月11日に開かれるキッズ・プレイキャンパス2001(会場:愛知青少年公園)において、スクールでの体験をもとにした発表会を行います。



各地のキッズ・プレイキャンパス協働スクール

- | | |
|------|--------------------------------------------------------------|
| 美浜町 | 「海の観察会」「潮だまりの生き物」「五宝川の生き物」「美浜里山保全クラブ」ほか |
| 瀬戸市 | 「体験陶房 瀬戸“赤津焼きを作ろう”」「親子星空観察会星っこクラブ」「星とイルカを見る会」「2001愛知こども環境会議」 |
| 長久手町 | 「夏休み昆虫講座」 |
| 高浜市 | 「夏休み 鬼板師 弟子入り体験」 |
| 豊田市 | 「こどもエコクラブ」「地域環境マップ作成モデル事業」 |

「環境情報システム」 へようこそ

環境に関する情報を
インターネットで公開!!

博 覧会協会が行った環境アセスに関する情報を一斉に集め、GIS(地理情報システム)を利用したものを7月13日よりホームページ上に開設しました。また、白地図上に市民が持っている情報を直接書き込むことができる“地図掲示板”を近日公開します。これを市民情報の交流の場にしたいと考えています。

詳しくは<http://ngsv13.expo2005.or.jp/kankyosys/>をご覧ください。



瀬戸市に 「EXPO 市民サロン」 OPEN!

みなさんの活動や交流の場に

6 月23日、2005年日本国際博覧会推進瀬戸地区協議会により、瀬戸市銀座通り商店街に「EXPO 市民サロン」がオープンしました。このサロンは、愛知万博の開催を支援する市民団体に無料で会議スペースを貸し出すなど、活動拠点、交流の場として利用するには最適な場所です。また、愛知万博の情報や瀬戸市の観光情報などもチラシやインターネット等で手に入れます。ぜひ一度、足を運んでみてください。



シンボルマークが 2001年 ADC会員賞を受賞

シ ンブルで飾り気のないマーク。だからこそ人の目に止まり、心に残る。そんな愛知万博の顔であるシンボルマーク & ロゴタイプ & グラフィックデザイン が2001年度「ADC会員賞」を受賞しました(アートディレクター=大貫卓也/大貫デザイン)

photo by Mitsumasa Fujitsuka



ADC賞とは、日本の広告・デザイン界を代表するアートディレクターで構成される東京アートディレクターズクラブが、国内で発表、使用、掲載されたポスター・新聞広告・雑誌広告などの広告媒体の中から審査し、選出した賞のことで、

愛知万博公式ピンバッジを 名古屋市内の百貨店でも販売中

街 の看板や、スーツの襟もとなど、そのマークを見かけない日はないほど親しまれてきているシンボルマーク。もっと身近に愛知万博を感じていただけるように、6月10日より、下記の名古屋市内百貨店でも公式ピンバッジの販売を始めました。



- 取り扱い百貨店
- | | |
|----------|-------------------|
| 松坂屋名古屋店 | 本館1階南案内所・南館1館東案内所 |
| 名鉄百貨店 | 西口1階案内所 |
| 名古屋三越栄本店 | 1階北案内所 |
| 丸栄 | 1階正面入り口案内所 |
| JR名古屋高島屋 | 1階中央ブロック総合案内所 |
- また、従来の博覧会協会窓口とあわせ、名古屋商工会議所、中部経済連合会担当窓口でも引き続き販売しています。
- 価格 1個100円(消費税込み)
- 問い合わせ先 財団法人2005年日本国際博覧会協会
営業推進グループ 事業企画チーム tel.(052)569-2163

EXPO 2005 AICHI PR DAY

街の中にEXPOグリーンが 広がっています

毎月25日は「万博PRの日」

愛知万博が開幕する2005年3月25日にちなんで、毎月25日を「万博PRの日」とする動きが、中部経済産業局の呼びかけのもとに広がっています。各団体、企業等が趣向をこらし、さまざまなPR活動を展開。その活動の様子を紹介します。

中部経済産業局

今年3月から広報施設(グリーンウイング)を建てPR。局内にのぼりを設置したりポスターを掲載するなど、身近な所からPR活動を行っています。



Q PR活動を始められた経緯をお話ください。

A 局内の身近なところから、また私たちができるところから、愛知万博を盛り上げていきたいと思い活動を始めました。

(社) 中部経済連合会

男性職員のみなさんは緑色のネクタイ、女性職員のみなさんは緑色のポケットチーフを着用。おそろいの緑色で職場はいつにも増して華やかです。



Q ほかに進めている活動はありますか。

A シンボルマークバッジの販売や、会報や封筒にはマークを掲載します。

名古屋商工会議所

胸元に輝く緑色リボンをご覧ください。リボンの形は職員のみなさんがそれぞれ考え、個性豊かな形になっています。



Q いつから、リボンを身につけるようになったのですか?

A 今年の5月25日からです。EXPOカラーであるグリーンを身につけ、愛知万博を支援していきます。

野村證券(株)

男性職員のみなさんはシンボルマークバッジ、女性職員のみなさんは緑色のブラウスを着用。来客には愛知万博へ寄せる期待を簡単なアンケートで行ったり、ハーブの種を配ったりしています。



Q クイズの内容を少し教えていただけますか。

A 例えば、「愛知万博のテーマは?」など愛知万博についての基本的な問題です。

発行 / 財団法人 2005年日本国際博覧会協会
発行日 / 2001年(平成13年)8月24日
編集 / 楠本 孝
部数 / 180,000部

名古屋事務所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目15-1
名古屋ダイヤビルディング2号館4階
Tel.052-569-2005 Fax.052-569-2100
東京事務所 〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1-1
飯野ビル7階
Tel.03-5521-1601 Fax.03-5521-1607

「EXPOの耳」
インターネットホームページアドレス
<http://www.expo2005.or.jp>
「EXPOの耳」Eメールアドレス
voicebox@expo2005.or.jp

re100
この印刷物は、再生紙
(古紙含有率100%) を
使用しています。

この広報誌の制作にあたっては日本自転車振興会
「競輪公益資金」の補助を受けました。
EXPO 2005 AICHI だより 2001.8.24 08